

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2018.11 vol. 151

第5回 がん市民公開講座

平成30年10月14日に第5回のがん市民公開講座を鹿児島県医師会館大ホールで開催いたしました。今年は消化器内科が担当であったこともあり、「ここまで来た消化器がんの診断と治療～治療を受ける患者さんをサポートする～」というテーマで、外科、コメディカルの協力をいただき、消化器癌の診断、治療、予防につきまして最新の医療知識を提示するとともに、がん患者さんの化学療法の副作用対策や精神面でのケアなど、当院が目指している、がん患者さんを多方面からサポートするという理念を情報発信することができたのではないかと考えています。

特別講演として、当院で長年、腫瘍内科医として勤務された藤島弘光先生から消化器癌の化学療法について標準治療や、ノーベル賞受賞で話題となった免疫チェックポイント阻害剤についても詳しく、そしてわかりやすくお話をいただきました。

当日は他の催し物と重なったこともあり、参加者が例年より少なかったことはいささか残念ではありましたが、参加してくださった方々は大変熱心に講演に耳を傾けられ、講演後の質問も活発に行われました。特になんかの予防に対する関心が高かったように見受けられました。今回の経験を生かして、市民の皆様方へのがんについての情報提供をさらに充実し、がん拠点病院としての使命を果たして参りたいと思います。

最後になりますが、ご後援をいただきました鹿児島県、鹿児島市、鹿児島県医師会、鹿児島市医師会、鹿児島県歯科医師会、南日本新聞社に厚く御礼申し上げます。

(文責：消化器内科部長 櫻井 一宏)



平成30年度

楽しく学ぶ基礎看護技術講座2

認知症患者の看護



平成30年10月6日、第2回目の「平成30年度楽しく学ぶ基礎看護技術講座」を開催致しました。今回は、認知症患者の看護をテーマに、鹿児島県内から14施設、院内外合わせて73名の新人看護師が参加しました。

この研修では老年期の特徴をふまえ、認知症看護の基礎知識と看護の実際について理解することや、演習を通して認知症患者の行動を理解した看護の実践力を身につけることを目的としています。講義後、グループワークで「紐解きワークシート」を使いながら事例検討を行いました。紐解きワークシートとは、援助者が困難だと感じる事例を、援助者の立場に立って一緒に考えながら、援助者の課題を認知症の人の要望や願いに置き換えて考えることができるツールのことです。

研修生は講義で得た知識と関連づけながら、看護師の視点と患者の視点になって状況を捉え、認知症患者を1人の人として尊重し、その人らしく療養生活を送るための具体策について活発に意見交換していました。その姿を見て、当院で取り組んでいるユマニチュードの実践で、今回の研修がとても役立つような気がしてならないのは担当者だけでしょうか…。各施設で認知症患者の立場に立って関わっていけることを期待したいと思います。

(東7階病棟 副看護師長 尾辻 真由美)

10月6日、「楽しく学ぶ基礎看護技術講座：認知症患者の看護」研修に参加しました。これまで認知症患者と接する中で、患者から何度も同じ訴えがあり、なかなか理解ができず対応に困ってしまうことがありました。このような場面で、私は患者自身を変えようと働きかけていたことがわかり、現実の世界から認知症患者を見るのではなく、認知症患者の感じている世界に近づき、自分が変わることが大切であると学ぶことができました。研修を通して、これまでの看護を見直し、タッチングやアイコンタクトなどの技術、共感するコミュニケーションの手法を用いて、患者が安心できる関わり方を実践し、よい看護を提供していきたいと思っています。

(東3階病棟 看護師 岩下 舞乃)

認知症患者の看護の研修を受けて、特に印象に残った学びは「認知症の人の行動は援助者の鏡。援助者のイライラした気持ちは認知症の人のイライラした気持ちを呼ぶ」という事でした。

私は、患者さんの攻撃的な行動や発言は認知症の症状であるため仕方がないと考えていましたが、今回の研修を通して自分の焦りや言動が患者さんに伝わっていたのだからかもしれないと気付くことが出来ました。

今回の学びを活かして、日々の患さんに対する自己の関わり方について、第三者的視点で考え行動するようにしていきたいと思っています。また、当院で取り組んでいるユマニチュードの考え方にも通じていて、意識して実践することで自然と患者さんの安心に繋がると考えます。これらの視点を忘れずに看護を実践していきたいと思っています。

(東5階病棟 看護師 宮路 真央)



施設間ローテーション研修について

鹿児島県の国立病院機構3施設（指宿医療センター、南九州病院、鹿児島医療センター）はそれぞれの病院の特徴を生かし、国立病院機構が求める看護師としての能力に達成するための学習を支援することで優秀な人材を育成し、広く鹿児島県の医療の質に貢献できる看護師を育成することを目的とし、平成28年度より新人看護師を対象に施設間ローテーション研修を実施しております。今回3施設のローテーション研修を終えた研修生に、研修での学びを紹介してもらいました。

（副看護部長 友倉 三千代）

施設間ローテーション研修で学んだこと



私は平成29年4月に鹿児島医療センターに就職し手術室に配属になりました。ローテーション研修として平成29年10月に南九州病院の神経内科病棟と重症心身障がい児病棟、平成30年4月に指宿医療センターの消化器内科・小児科混合病棟に配属され、10月に再び当院へ帰ってきました。

私が施設間ローテーション研修を希望した理由は、地域看護に興味があり鹿児島県内のそれぞれの地域に根差している医療を提供している3施設で学ぶことによって、その地域の人々と出会い、地域で暮らしている方々の思いを知ることによって看護の視野を広げることができると思ったからです。また、当院では手術室経験しかなかったため、病棟で行われている看護技術やコミュニケーション能力で未熟な部分を習得していきたいと考えていました。実際に、研修を通して神経内科、消化器内科、小児科などの診療科を経験し、多くの技術を習得し、看護を学ぶことができました。

私が初めて受け持った患者さんの退院支援に関わった際に、患者さんはすぐにでも退院したいという思いでしたが、ご家族は身体状態が落ち着いてから自宅に迎えたいという思いがありました。私は患者さんの思いを重視していたため、ご家族と私との考えに差が生じ、ご家族とコミュニケーションがうまく取れず、患者さんのもとへ訪室することが辛くなることもありました。しかし、受け持ち看護師は私であり、もっと受け持ち患者さんのことを知り、できる限りのことをしたいと思いました。そこから、受け持ち患者さんの部屋へ積極的に訪室し、過去の事や今まで大事にしてきたものを知りたいと考え、関わっていくうちに徐々にコミュニケーションを取ることができるようになりました。これにより、患者さんの大事にしてきたことや、これからの希望について知り得た看護情報をスタッフ全員で共有し、看護しました。この関わりで、患者さんの意思決定を尊重し、その人らしくいられるような支援を行うことや、地域で暮らすために必要な福祉関連の調整などを学ぶことができました。

施設間ローテーション研修では、各施設で様々な看護観を持った看護師に出会いました。自分で訴えることができない患者さんへフィジカルアセスメントをしっかりと、人の尊厳を大切にすることを教えてくれた看護師や、患者さんの言葉の裏にあるものを気にかけて調整をしていた看護師に出会い、看護場面を通して自分の看護の視野を広げることができました。そして、多くの仲間ができた。目標とする看護師像を描くことができました。

現在手術室で勤務していますが、全身麻酔で訴えることのできない患者さんの気持ちをくみ取りながら、チームで情報を共有し先を予測した対応をすること、また手術以外でも入院前から入院中の手術前後の経過、退院後患者さんが地域で生活される状況を考えながら病棟看護師をはじめ多職種と連携すること等、この研修で学んだことを早速活かしていきたいと思っています。

（手術室 看護師 本野 圭）

鹿児島医療センター

第2回 地域緩和ケア
連携研修会開催報告



地域の医療や介護に従事する皆様と、医療提供体制や社会的支援のあり方、緩和ケア、緊急時の体制について情報を共有し、役割分担等を議論する場を設けるべく、本年度から地域緩和ケア連携研修会を開催しています。

平成30年9月27日(木)に開催した第2回研修会では、内村川上内科在宅介護事業統括管理部長・日本介護支援専門員協会専任理事の新地一浩先生を講師にお招きし「連携で実現できる在宅の暮らし～チームケア一員の立場から～」という演題でお話いただきました。

地域包括ケアシステム・地域医療構想・連携や在宅医療について、事例を交えながらわかりやすく講演していただきました。地域包括ケアシステムの実現に多職種連携が不可欠であること、平時からの医療と介護連携が重要であることを改めて確認することができました。

今回の研修には、地域の看護師、ケアマネージャー、MSW等90名ほどの皆さまに参加していただきました。講演後には多くの職種の方々と「在宅への連携」を一緒に考え、ディスカッションし、活発な意見交換ができました。在宅へ帰るためにどのように連携しているかについての具体的なお話を聞くことができ、今後に活かせるご意見をいただきました。

第3回研修会は来年2月ごろに開催予定です。多くの皆さまの参加を心よりお待ちしております。

(文責：心理療法士 杉本 京子)

新任紹介



眼科

大井 城一郎

10月から勤務することになりました眼科の大井城一郎と申します。

平成19年鹿児島大学眼科に入局し、今回鹿児島医療センターは初めての勤務となります。

眼科の立ち上げにご尽力された精松先生の後任ということもあり、身の引き締まる思いです。眼科は現在私含め専属看護師1名、視能訓練士1名の計3名と小所帯であり、私自身も未熟者でありますので、皆様にはいろいろとご迷惑をお掛けするかとはい思いますが、微力ながら日々精進していく所存です。

何卒よろしくお願ひ致します。



婦人科

税所 篤志

10月から勤務させていただくこととなりました、婦人科の税所篤志と申します。

鹿児島大学出身で2年間の初期臨床研修終了後、今年の4月に鹿児島大学産婦人科に入局いたしました。4月から9月までは大学病院で勤務し、今回縁あって鹿児島医療センターで働かせていただけることになりました。半年の予定ではありますが、一つでも多くのことを学んでいきたいと思っております。まだまだ未熟でご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、精いっぱい頑張りますのでよろしくお願ひします。



耳鼻咽喉科

久徳 貴之

いつもお世話になっております。鹿児島大学耳鼻科から、10月に赴任してまいりました。医療センターでは研修医の時に1年間弱お世話になり、実のある楽しい研修を送らせていただきました。各診療科の距離の近い病院ですので、耳鼻科はもちろん他科との連携も学ばせて頂きたいと思っております。手術件数の多い当院ですので、積極的に励んでいきたいと思っております。ご迷惑おかけすることがあると思っておりますが、何卒ご容赦ください。よろしくお願ひいたします。

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・丹後田・田上・吉永・迫田・中田・椎原・吉留・櫻木・田辺・山之内・前田

【がん相談】 松崎・森・水元・原田・久保・杉本・児玉

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

